

みづあか
なかつ水灯り 2018

開催日：平成30年10月6日(土)～11月25日(日)

開催場所：日ノ出町商店街、深耶馬溪一目八景展望台、中津市立小幡記念図書館ほか



●実施状況

中津市では、リーディング事業として「なかつ水灯り2018」を開催し、そのなかで「高橋匡太によるライティングプロジェクト」と「まちなかアートプロジェクト」の2つのプロジェクトを実施しました。

「高橋匡太によるライティングプロジェクト」では、全国的に活躍する光のアーティスト高橋匡太氏を迎え、日ノ出町商店街を会場に市民とともに幻想的な光の作品をつくる『ムーンリバー』と、紅葉の美しい深耶馬溪を舞台にした「耶馬溪ライトアップ『新・一目八景』」、2つのアート事業を展開しました。『ムーンリバー』では、「ボトルメール」をテーマに、商店街のアーケードに無数のボトルが流れる「光の川」が出現。約4,000個のボトルには、市内の子どもたちが「みらいのともだち」に宛てて書いた手紙が詰められており、会期中に来場者が手紙を書くと子どもたちの手紙と交換することができました。また、著名な詩人10人が書いた手紙も会場に展示されました。「耶馬溪ライトアップ『新・一目八景』」では、中津を代表する景勝地・一目八景の奇岩に地元の中学生在が新たな名を与え、そのストーリーに対応した大規模なライトアップを期間限定で行いました。

「まちなかアートプロジェクト」では、中心市街地の4つの展示会場を巡るアートイベントを実施しました。それぞれの会場では、周防灘地域の障がい者が制作した作品124点を集めた「障がい者アート作

品展」、中津ゆかりの洋画家を取り上げた「中山忠彦展－美の追求－」、ダンボールクラフトの魅力を紹介した「国東時間のモノづくり－ヒトノカタチノモノイロ－」、県内で活躍する若手作家を取り上げた「北村直登+ ATELIER WORKS」の各企画展を開催。会期中には、作家を招いてのワークショップやギャラリートークなどの関連イベントも開催されました。

「なかつ水灯り2018」の各イベントには、会期を通じて多くの来場者が訪れていました。新たなアート事業の創造を通じて、歴史と文化の香るまち中津の魅力を広く発信することができました。

●プログラム

10月6日(土)～11月25日(日)

[耶馬溪ライトアップのみ11月10日(土)～18日(日)]

- ・高橋匡太によるライティングプロジェクト『ムーンリバー』、「耶馬溪ライトアップ『新・一目八景』」
- ・まちなかアートプロジェクト「障がい者アート作品展」「中山忠彦展－美の追求－」「国東時間のモノづくり－ヒトノカタチノモノイロ－」「北村直登+ ATELIER WORKS」

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 中津市 中津市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭中津市実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭中津市実行委員会

149

すいきょう

水郷ひた芸術文化祭 2018

開催日：平成30年10月6日(土)～11月25日(日)

開催場所：日田市複合文化施設AOSE、日市民文化会館パトリア日田ほか



大巻伸嗣個展「SUIKYO」



Photo by Tadasu Yamamoto

●実施状況

周囲を美しい山々に囲まれた日田市は、豊かな水流にも恵まれ、「水郷ひた」と呼ばれています。「水郷ひた芸術文化祭2018」では、国内外で活躍する現代美術家・大巻伸嗣氏による個展「SUIKYO」、さらに「水の森短歌大会」、「水の森全国俳句大会」の3事業を実施しました。

大巻伸嗣個展「SUIKYO」では、水とともに生きてきた日田の歴史や文化から着想した、対(つ)いとなる作品が2会場を使って発表され、合計で約4,900の方が鑑賞に訪れました。遠方からの来客も多く、現代美術展を通じて文化交流や日田市の魅力発信が図られました。

日田市複合文化施設AOSE(アオーゼ)多目的ホールでは、大巻氏の代表作「Liminal Air」シリーズの新作で、日田の豊かな自然から得た印象を作品にした「Liminal Air Space-Time SUIKYO」を展示。真っ暗なホール一面に広げられた1枚の布が、風に波打ち、灯りに照らされて常に変化し、見る人それぞれに、たゆたう水面や激しい水流、山々の稜線など、様々な情景を思い起こさせるものでした。

一方、昭和8年に開業し、かつては毎日のように宴会が行われていた旧料理屋「盆地」を舞台と

した作品「座 盆地」は、昭和の終わりに閉業し、現在は空き家となっている建物全体を作品化したもので、多くの人々が築いてきた営みや時間を感じるとともに、自分自身の内面とも向き合うような体験のできる、静かな空間が生み出されています。

11月3日には、今回制作した作品について作家自身が語るアーティストトークイベントを開催。終了後には作家とともに作品を鑑賞し、より深く作品を感じ取ることができました。

また、展覧会を訪れた方に、作家が惹かれた日田の魅力を追体験していただくため、会場周辺の文化施設やショップ・飲食店等に加えて、作品のインスピレーションを受けた場所などを紹介する「ひたアートまちあるきマップ」の無料配布を市内各所で行いました。

「水の森短歌大会」では、九州・沖縄・山口各県より802首の投稿をいただき、その中から選ばれた入賞作品の表彰式を実施しました。また、現代歌人協会理事長の大島史洋氏の記念講演や、作品の選考にあたった16名の選者の方全員による講評が行われました。

「水の森全国俳句大会」は、2日間にわたって開催されました。初日は吟行を実施し、県内外からの参加者が大型バス2台で市内の景勝地(亀山公



水の森短歌大会



水の森全国俳句大会



園と三隈川、小鹿田焼の里）を訪れました。2日
目には、全国から数多くの応募をいただいた事前
投句（一般の部:2,446句、小中高校生の部:4,005
句）の中から選ばれた入賞作品の表彰と講評、俳
人協会副会長の栗田やすし氏による記念講演、当
日投句の選句・表彰・講評を行いました。

短歌大会、俳句大会、どちらも文部科学大臣賞
をはじめとする各賞にふさわしい力作が揃い、盛
会のうちに終了しました。

●プログラム

- ①10月6日（土）～11月25日（日）
大巻伸嗣個展「SUIKYO」
- ②10月14日（日）
「水の森短歌大会」
～たおやかに たゆたう 水郷ひたの歌～
- ③11月10日（土）・11日（日）
「水の森全国俳句大会」
～俳諧から今日の俳句へ 水郷ひたで俳句を詠む～

●表彰

- ②水の森短歌大会 ③水の森全国俳句大会
文部科学大臣賞 国民文化祭実行委員会会長賞
大分県知事賞 第33回国民文化祭大分県実行
委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行
委員会会長賞 大分県議会議長賞 大分県教育
委員会教育長賞 日田市長賞 第33回国民文
化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭日田市
実行委員会会長賞 日田市議会議長賞 日田市
教育委員会教育長賞
- ②水の森短歌大会
各選者賞
- ③水の森全国俳句大会
日本伝統俳句協会賞 俳人協会賞 現代俳句協
会賞 大分県俳句連盟賞

●主催者

- 文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 日田市
日田市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第
18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文
化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭日田市実行委員会
- ②日本歌人クラブ 現代歌人協会 大分県歌人クラブ
- ③公益社団法人日本伝統俳句協会 公益社団法人俳人協会
現代俳句協会 大分県俳句連盟

150

先哲舞台制作公演「大河を^{のぼ}遡る」

開催日：平成30年10月27日(土)・28日(日)

開催場所：九重文化センター



出会の場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

●実施状況

先哲舞台制作公演「大河を遡る」は、1889（明治22）年の筑後川氾濫で生きる場所を失った久留米の農民たちに、九重の千町無田への開拓移住を呼びかけた元久留米藩士・青木牛之助の生涯と、筑後川を遡り、荒れ果てた土地を切り開き、美田へと変えた開拓民たちの壮絶な苦労を描いたミュージカルです。

舞台制作にあたり、町内の演劇関係者や千町無田地区の関係者で実行委員会を組織し取り組みました。

キャストは、九重町でホール建設時より活動している九重町民劇場の団員を中心に、一般参加者を広く公募した結果、町内外から4歳から70代までの男女30名が集まりました。また、大がかりな舞台セットや衣装、音響、舞台転換など、照明以外は全て町民手作りとし、総勢70名を超えるキャスト・スタッフが関わった舞台となりました。

原作「大河を遡る～九重高原開拓史～（古賀勝氏）」を基に、脚本を原田佳夏氏、演出を清末典子氏、作曲と歌唱指導を石橋序佳氏、振付指導を山田和音氏に依頼。各位の熱心な指導のもと、歌もダンスも芝居も初めてというキャストがほとんどの中で、週3回の練習を重ねました。通常の演

劇的要素に加えて歌唱、ダンスなど、ハードな練習が続きましたが、ミュージカルという高いハードルに挑戦する自分たちの姿を、荒野と化した千町無田を美田に変えていった開拓農民たちの苦難と希望に重ね、「感動してもらえる舞台づくりを」という思いを全員で共有しながら本番に臨みました。

町民手作りのミュージカルということでマスコミの関心も高く、県内のマスコミに加えて、福岡のテレビ局からも事前に取材いただいた結果、公演には2日間で町内外から700名を超える観客に会場いただくことができました。

キャスト達も観客の心を揺さぶる素晴らしい熱演を披露しました。観客の皆様からは「素晴らしい千町無田の風景を是非見たい」という感想もたくさんいただきました。

国民文化祭は各市町村の文化に対する機運の醸成と継続した取組を図ることが目的の一つですが、本事業はその役割を十分に果たす公演となりました。

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 九重町 九重町教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭及び第18回全国障害者芸術・文化祭九重町実行委員会 先哲舞台制作実行委員会

童話の里くすまち「こどもフェスティバル」

開催日：平成30年10月13日(土)・14日(日)

開催場所：わらべの館、久留島武彦記念館、くすまちメルサンホール



●実施状況

玖珠町は「日本のアンデルセン」とも称された児童文学者、久留島武彦の出身地です。「子どもが育たなければ日本の未来はない」と訴え、子どものための文化事業に邁進した郷土の偉人にちなみ、10月13日・14日の2日間にわたり「童話の里くすまち『こどもフェスティバル』」を開催しました。

10月13日は「こどもと楽しむフェスティバル」として、3会場で人形劇や影絵、コンサート等を実施しました。「わらべの館」では、玖珠町実行委員会会長の宿利政和玖珠町長による開会宣言の後、地元わらべサークル協議会のメンバーによる「わらべサークルおとぎ劇場」を開催しました。

200名を超える親子連れの観客は、時には笑い、時には歌を口ずさみながら、出演者と一緒になって盛り上がりました。午後からはプロの「劇団スタジオライフ」による影絵劇「あらしのよるに」「あるはれたひに」の特別公演が開催され、影絵独特の幻想的なステージが披露されました。また、6月のワークショップで作成された影絵作品の紹介も行われました。

久留島武彦記念館では、全国童話人協会による「方言で語る日本の昔話」を開催しました。プロの

口演童話家が地元玖珠町の昔話「伐株山」をはじめ、全国各地の昔話をお国ことばで語ってくれました。国訛りやイントネーションの違いはあるものの、とてもわかりやすい語り口で、子ども達もお話の内容に引き込まれていました。

「くすまちメルサンホール」では、童話の里の贈り物「くるしま絵本コンサート」を開催しました。大分ウィンドフィルハーモニーの大編成が、くるしま童話の名作選から「月宮殿のおつかい」「すずむし」を、語りとオリジナル音楽のコラボレーションで披露し、約100名の観客の心に響くコンサートとなりました。

10月14日は、くすまちメルサンホールを会場として、特別ゲストによる公演と地元の子も達による各種ステージを開催しました。

午前中はプロの人形劇団「ひとみ座」が久留島武彦の童話「カラスとおともだち」「トラの子ウーちゃん」の特別公演を開催しました。童話で慣れ親しんだキャラクターが人形劇となって生き生きと動く様子に、約150名の観客は時を忘れて楽しんでいました。

午後は、「こどもが主役のフェスティバル」として、公募により集まった町内団体を中心に、子ども囃子、太鼓、ダンス、合唱、吹奏楽、神楽が披露されました。8月に開催された「全国語りべ大会」



で入賞した県内の子どもによる童話や昔話の語りもあり、まさに子どもが主役のイベントとなりました。

●プログラム

10月13日(土)

11:00~12:30 わらべサークルおとぎ劇場

- ・人形劇ビキタロ「花さかじいさん」
- ・絵本の会はびねす「くるしまたけひこ物語」他
- ・語りべひこわの会「十二支のおはなし」
- ・くすパペット「三つの愛ことば」
- ・児童サークルさわらび「ほたる地蔵」
- ・くすコールメルヘン「ゆうやけこやけ」「ドレミの歌」

13:30~15:00 劇団スタジオライフ特別公演

影絵劇「あらしのよるに」「あるはれたひに」

15:00~17:00 全国童話人協会

「方言で語る日本の昔話」

18:00~19:00 大分ウィンドフィルハーモニー

童話の里の贈り物「くるしま絵本コンサート」

10月14日(日)

11:00~12:30 人形劇団ひとみ座特別公演

「カラスとおともだち」「トラの子ウーちゃん」

14:00~17:00 こどもが主役のフェスティバル

森祇園保存会「子ども囃子」

久留島太鼓「和太鼓『雲流』」

久留島太鼓+日出生大自然太鼓「和太鼓『夢大』」

全国語りべ大会入賞者(藤原柚羽「すずむし」)

(安東聖矢「変な魚のはなし」)

杉ノ子ダンスチーム「ヒップホップダンス」

玖珠少年少女合唱団「おとぎメドレー」

大分県立玖珠美山高校吹奏楽部

DANCE Ma Riy「NO EXCUSES」他

北山神社岩室楽保存会「カッパおどり」

くすまち演劇研究会「橋を架けよう」

古後小学校「古後神楽」

日出生大自然太鼓「和太鼓『心響』」

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 玖珠町 玖珠町教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭及び第18回全国障害者芸術・文化祭玖珠町実行委員会

152

九州人形芝居フェスティバル

開催日：平成30年10月21日(日) (創作人形展 10月20日(土)・21日(日))

開催場所：中津文化会館



●実施状況

中津市には、長い歴史と伝統を持ち、大分県の無形民俗文化財の指定を受けている「北原人形芝居」があります。その起源は古く、鎌倉時代にまでさかのぼると言われています。今日までこうした伝統文化が地域に息づく中津の地で、九州各地の伝統芸能を保持する人形芝居、浄瑠璃団体が一堂に会する「九州人形芝居フェスティバル」を開催しました。

人形浄瑠璃の公演では、7つの人形座の演目に加えて、ユネスコの無形文化遺産に登録されている「人形浄瑠璃 文楽」が特別出演しました。文楽の演目のなかでは、丁寧な解説を交えながら義太夫節と人形遣いの実演が行われ、「伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段」の一場面が披露されました。また、幕間には観客が舞台にあがり人形遣いを体験する時間も設けられ、初心者にもわかりやすく伝統芸能を楽しむことができ、人形浄瑠璃の醍醐味を実感する舞台となりました。各人形座もこの日のために練習を積み重ね、それぞれ熱のこもった演目が披露されました。北原人形芝居保存会の演目「絵本太功記十段目 尼ヶ崎の段」をもって終演。長時間にわたる公演となりましたが、多くの来場者・出演者をお迎えし、伝統芸能への理解・関心を高めると同時に、今後の保存伝承のために技術を磨き、交流を深めるまたとない機会となりました。

また本公演にあわせて、一般財団法人人形美術協

会による「創作人形展」が2日間にわたり開催されました。会場には、全国各地から出品された創作人形が展示され、来場者は個性溢れる創作人形の世界を楽しんでいました。人形浄瑠璃の公演と創作人形展の展示、時代やジャンルは異なりますが、「人形」をキーワードに、伝統芸能・芸術文化に触れることのできる貴重な祭典となりました。

●プログラム

[人形浄瑠璃公演] 10月21日(日)

第一部 10:00~12:00

皿山人形浄瑠璃保存会(長崎県) / 人形浄瑠璃 文楽(特別出演)

第二部 13:00~16:00

唐津人形浄瑠璃保存会(佐賀県) / 千綿人形座サポーター(長崎県) / 清和文楽人形芝居保存会(熊本県) / 今津人形芝居保存会(福岡県) / 勝浦人形浄瑠璃保存会(福岡県) / 北原人形芝居保存会(大分県)

[人形美術協会「創作人形展」]

10月20日(土)・21日(日) 10:00~17:00

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 中津市 中津市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭中津市実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭中津市実行委員会 一般財団法人人形美術協会 北原人形芝居保存会

153

小倉百人一首競技かるた全国大会

開催日：平成30年10月27日(土)・28日(日)

開催場所：ダイハツ九州アリーナ



出会の場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

●実施状況

小倉百人一首競技かるた全国大会が、「集え 諭吉の里 競え 研ぎ澄まされた『かるたの技』」のサブテーマのもと、福澤諭吉をはじめ多くの文化人を輩出した歴史と文化の香るまち、中津の地で開催されました。

国民文化祭における本大会の開催は、今年で15回目になります。47都道府県の代表チームに加えて、海外から中国・フランスの2チームがエントリーし、合計49チームが5人一組の団体戦に挑みました。全選手が着物と袴の和装で出場し、現役、歴代の名人やクイーンなどトップクラスの代表選手による熱のこもった攻防が繰り広げられました。

1日目の予選リーグでは、全チームが13ブロックに分かれて3試合を行い、各ブロック1位の13チームと、2位の中からリーグ成績上位3チームの計16チームが決勝トーナメント進出を決めました。2日目の決勝トーナメントは、予選を突破したチーム同士による接戦となりました。大分県代表チームはベスト8で栃木県に惜敗。決勝は接戦を勝ち上がった福井県と滋賀県が対戦し、福井県が3勝2敗で熱戦を制しました。同日に表彰式が行われ、1位から4位のチームに賞状ならびに優勝杯、準優勝杯が授与されたほか、1位から3位には副賞のメダルが授与されました。

昨今の競技かるたブームを裏付けるように、会場には両日とも多くの観客が訪れていました。平成最後の大会を、永世クイーンを輩出した小倉百人一首とゆかりの深い中津市で開催できたことは感慨深く、中津市の豊かな自然、歴史と文化とともに、競技かるたの魅力を広く発信する大会となりました。

●プログラム

10月27日(土)
 オープニングアトラクション
 開会式
 予選リーグ1回戦～3回戦
 予選リーグ閉会式(結果発表・決勝トーナメント抽選)
 10月28日(日)
 決勝トーナメント1回戦、2回戦
 準決勝戦
 決勝戦・3位決定戦
 閉会式(表彰式)

●表彰

1位〈文部科学大臣賞〉福井県かるた協会
 2位〈国民文化祭実行委員会会長賞〉滋賀県かるた協会
 3位〈第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長賞〉栃木県かるた協会
 4位〈第33回国民文化祭中津市実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭中津市実行委員会会長賞〉福岡県かるた協会

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 中津市 中津市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭中津市実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭中津市実行委員会 一般社団法人全日本かるた協会

ミュージカル「山国川奇譚 鶴市愛歌」
やまくにがわ き たん つるいちあいうた

開催日：平成30年11月18日(日)

開催場所：中津文化会館



●実施状況

「八幡鶴市神社縁起」として中津に古くから語り継がれている物語を、市民キャストによるオリジナルミュージカル「山国川奇譚 鶴市愛歌」として上演しました。

毎年8月に開催される八幡鶴市神社の「鶴市花傘鉾祭」は、今から800年以上も昔、毎年のように洪水で決壊していた山国川の大井手堰を完成させるため、進んで人柱となった「お鶴・市太郎」母子の霊を慰めるとともに五穀豊穡を願う、大変歴史と伝統のある行事です。国民文化祭の開催に際して、中津市では、広く親しまれているこの鶴市の物語を市民キャストによるオリジナルミュージカルとして上演することを計画。オーディションにより選ばれたキャストたちは、一年あまり練習を重ね力量を磨いて本番を迎えました。

本番当日までにチケットは完売、満席の会場のなか、プロローグを経て山国川の堤の場面から第一幕が始まりました。ミュージカルの劇中には、中津市に古くから伝わる北原人形芝居による場面もあり、新たに創作した人形浄瑠璃によって物語が展開されました。第二幕では、クライマックスに向けて物語が大きく展開。数々のミュージカルナンバーの楽曲・美しい歌声とともに出演者の熱のこもった演技で会

場は感動に包まれ、ラストシーンでは涙する人もみられました。第二幕終了後のカーテンコールでは、38名の市民キャストに加え、バレエスクールなど協力団体を含めた全出演者が登場し、鳴りやまない拍手の中終演を迎えました。

我が身を犠牲にして、故郷や愛する人たちを守ろうとした鶴市の物語は、ミュージカルの上演を通じて多くの人の心に響いたようです。今回新たに誕生した創作ミュージカルの反響は大きく、終演直後から再演を熱望する声も聞かれ、今後の展開が期待されるミュージカル公演となりました。

●プログラム

プロローグ、第一幕 14:00～15:00

「七人の地頭」「花見の宴」「お鶴の愛」「母子」「心の家族」他

第二幕 14:15～16:15

「将来の誓い」「組曲・祈念」「運命の決断」「鶴市愛歌」他

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 中津市 中津市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭中津市実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭中津市実行委員会 NPO法人中津文化協会

155

日田杉×まちなかアート

開催日：平成30年10月6日(土)～11月25日(日)

開催場所：市内商店街等7箇所



●実施状況

「日田杉×まちなかアート」では、日田市の基幹産業である林業を支えている日田杉を使用することで、より日田らしさが表現でき、障がい者の芸術作品も際立つのではないかとのコンセプトのもと、日田杉を使用した障がい者アート作品や絵画を、市内商店街を中心として展示しました。

障がい者福祉施設等の協力を得ながら、幻想的な絵画、彩鮮やかなデザイン画、廃材を利用した工夫あふれる木工作品等、100点を超える作品を出展いただき、中央商店街、寿通り商店街、御幸通り商店街、豆田上町商店街、日田駅、淡窓図書館及び市役所の7箇所でスポット展示を行いました。

イベント開催に至るまでも、5月の市役所1階ロビーでのプレ展示を皮切りに、8月から9月にかけて市内公共施設にモニュメントを設置するなど、市民へのPR活動を行いました。

また、多くの方々に関わっていただきたいとの思いから、市民の皆様にもご参加をいただき、日田杉で作られた「うちわ」に絵などを描いた作品を日田市商店街連合会のご協力のもと、市内商店街の店先などに飾っていただきました。

今回、障がい者の方々が制作した個性と才能

あふれる素晴らしい作品に触れていただけたことで、日田市に暮らす障がいのある方もない方も、互いに理解しあえる良い機会となったと思います。今後も障がい者の芸術・文化活動への支援を通じ、より一層の社会参加の促進に努めていきたいと思っています。

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 日田市 日田市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭日田市実行委員会

156

舞台演劇～島ひきおに～

開催日：平成30年10月17日(水)

開催場所：パトリア日田



●実施状況

この舞台演劇は、障がいのある人もない人も、誰もが参加して楽しむことができる演劇を目指すとともに、舞台演劇を通じて、障がいへの理解と認識を深め、障がいのある方の自立と社会参加の促進を図ることを目的として開催しました。

障がいのある方もない方も、演劇は未経験の総勢30名で一緒に練習を重ね、創り上げ、発表を行いました。

発起人である橋本氏を中心に、脚本、演出及び音楽等を地元ゆかりの方々が手掛けるとともに、公募で集まったメンバーによる演劇の練習を7～8月は週1回、9月は週3回、10月は毎日行ってきました。

当初予定していた10月7日の上演が、台風の影響により延期され、10月17日の開催となりました。平日夜の上演にも関わらず、当日は出演者の家族、友人を始め、チラシや広報等により上演を知った多くの方々に来場いただき、スタッフも含めると約400名の方々に演劇を見ていただくことができました。

演劇の最中は、多くの観客の方々から音楽に合わせての手拍子や、場面ごとに大きな拍手をいただきました。また、これまでの練習の成果を十分

に発揮し、大観衆に物応じせず、生き生きと演じるキャストに対し、「感動した」「素晴らしい演技だった」など多くの称賛の声もいただきました。

障がいのある方が中心となって作り上げた演劇は、本市でも初めてのことであり、多くの皆様に障がいへの理解と認識を深めていただいたと同時に、障がいのある方の無限の可能性を示すことができましたと考えます。

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 日田市 日田市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭日田市実行委員会

157

全国邪馬台国連絡協議会第5回全国大会「古代史サミットin日田」 ～光り輝く日田の古代文化～ - おおいた文化の祭典 -

開催日：平成30年11月20日(火)・21日(水)

開催場所：日田市複合文化施設AOSE(20日)、日田市民文化会館パトリア日田(21日)



出会の場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

●実施状況

日田市を中心とした地域は、弥生時代などの古代遺跡も豊かで、景行天皇や久津媛、五馬媛などの古代伝承も残され、古代日本を探求するうえで極めて重要な地域とされています。とりわけ、昭和8年に出土したとされる金銀錯嵌珠龍紋鉄鏡(きんぎん・さくがん・しゅりゅうもん・てつきょう)は金銀象嵌が施された日本で唯一の鉄鏡で、国の重要文化財に指定されており、邪馬台国を解明する上でも重要と考えられています。これらを踏まえ、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭「おおいた文化の祭典」事業として「古代史サミットin日田」を開催しました。

初日は、この鉄鏡の謎に関する「特別シンポジウム」を開催し、元産業能率大学教授の安本美典氏から「鉄鏡は邪馬台国と同時代のものであり、当時の国王クラスに贈られるのにふさわしいものである」との説明があるなど、県内外から集まった約80人が熱心に耳を傾けました。2日目は、初日の議論を踏まえ、日田の古代文化を総合的に明らかにするための「リレー講演」を3名の講師に出演いただき開催しました。また、3日目には、日田市内の古代遺跡や神社などを探訪するバスツアーを20人の参加のもと実施しました。

シンポジウム参加者からは「金銀錯嵌珠龍紋鉄鏡の重要性をはじめて認識することができた」「日田の古代文化が筑紫平野と密接な関係があることがわかった」など、今大会を評価する声が多く聞かれました。

●プログラム

- ・11月20日(火)
 - 特別シンポジウム 日田出土の「金銀錯嵌珠龍紋鉄鏡」の謎に迫る！
 - 〈パネラー〉 安本 美典(元産業能率大学教授)
 - 七田 忠明(佐賀城本丸歴史館長・考古学者)
 - 上原 翔平(日田市教育委員会)
 - 井上 悦文(全耶馬連九州支部副支部長)
 - 〈コーディネーター〉河村 哲夫(歴史作家・全耶馬連九州支部長)
 - 〈特別ゲスト〉鷲崎 弘朋(全耶馬連会長)
- ・11月21日(水)
 - 講演会「光り輝く日田の古代文化」
 - 井上 悦文、河村 哲夫、安本 美典によるリレー講演

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会、第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 「古代史サミットin日田」実行委員会

158

九重オータムミュージックフェスティバル

開催日：平成30年10月7日(日)

開催場所：九重文化センター



●実施状況

本イベントは平成29年6月にロシアで開催された、作曲家で東京藝術大学名誉教授の佐藤眞氏のコンサートに地元合唱団のメンバーが参加したことがきっかけで実現しました。

ロシアから「ウラジオストク沿海州立太平洋交響楽団」を招聘するとともに、全国各地から集まった総勢100名を超える合唱団、さらに町内の小学6年生65人が参加し、海外のオーケストラと共演しました。

オープニングでは地域の文化行事「豊後七福神」の出し物と、小学生による「坊ヶツル賛歌」合唱でオーケストラ団員を歓迎しました。

続く第一部はアナトリー・スミルノフ指揮の下、ウラジオストク沿海州立太平洋交響楽団が日本人にもなじみの深いロシアの作曲家による音楽を披露しました。

第二部では佐藤氏作曲の「土の歌」全七楽章を、本人指揮の下、平和への祈りを込めて参加団体が演奏・合唱し、ミュージックフェスティバルの名前にふさわしい充実した内容となりました。

九重町の小さなホールでオーケストラの演奏を聴くことのできる機会は少なく、演奏者の息遣いが聞こえるほどの距離感で素晴らしい演奏を体験

できたことは、観客をはじめとする参加者の芸術文化活動の刺激となり、次世代の人材育成につながる良いきっかけとなりました。

●プログラム

- 歓迎 「豊後七福神」「坊ヶツル賛歌」
- 第一部 ロシア・ウラジオストク沿海州立太平洋交響楽団による演奏
 演劇「仮面舞踏会」劇中曲より「ワルツ」
 白鳥の湖より「情景」「ハンガリー舞曲」
 「カルメン」幻想曲
 交響曲「禿山の一夜」
 バレエ「くるみ割り人形」より「花のワルツ」
 劇付随音楽「雪娘」より「道化師の踊り」
- 第二部 混声合唱のためのカンタータ「土の歌」
 全七楽章

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 九重町 九重町教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭及び第18回全国障害者芸術・文化祭九重町実行委員会 オータムミュージックフェスティバル実行委員会

159

絵本の世界に飛び込もう！

開催日：平成30年10月13日(土)・14日(日)

開催場所：九重ふるさと自然学校 九重自然教室「さとぼる」



出会の場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

●実施状況

10月13日・14日の2日間にわたり、シンガーソングライター山田証氏を進行役に迎え、九重町の飯田高原の自然を五感で楽しんでいただくイベントを開催しました。

2日間ともさわやかな秋晴れの天候に恵まれ、親子連れを中心とした参加者に、時間をゆったりと使ってさまざまなプログラムを楽しんでいただきました。

どんぐりを使ったマラカスづくり、森歩きなどの自然体験、絵本の読み聞かせ、チーム対抗のどんぐり隠しゲームなどが行われた後は、森の中でそれぞれお気に入りの木の根元に寝袋を敷いて親子で寝転がりながら山田さんの歌を聴く「ごろんコンサート」が開催されました。大自然の森の中でのコンサートは本イベントならではの、非日常の空間で奏でられるギターの色を参加者全員が楽しみました。

最後はたき火でマシュマロを焼いて食べながら振り返りを行い、穏やかな雰囲気イベントを終了しました。

保護者からは「とても癒された、もっとゆっくりと歌を聴いていたかった」といった感想が多く聞かれました。子どもだけでなく、参加した保護

者にとっても、時間に追われる日常を離れて生活や子どもとの接し方を考える良い機会になったのではないかと思います。

●プログラム

- 1 導入コンサート（雰囲気づくり）、絵本読み聞かせ「わたしたちの種まき」
- 2 ペットボトルでマラカスを作り、楽器を鳴らしながら歩く（種について自然解説）
- 3 ネイチャーゲーム「ごちそうはどこだ」
- 4 野草生け花
- 5 絵本読み聞かせ「大きな木のおくりもの」、ごろんコンサート
- 6 振り返り（たき火を囲みながら）、焼きマシュマロづくり

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 九重町 九重町教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭及び第18回全国障害者芸術・文化祭九重町実行委員会 絵本の世界に飛び込もう実行委員会

160

笑顔でつながるアート展in九重

開催日：平成30年10月14日(日)～21日(日)

開催場所：九重文化センター



●実施状況

九重町内であまり知られていない障がい者アートを多くの町民に広く知ってもらおうとともに、表現活動について考えていただくきっかけとなることを目的に、10月14日から21日の8日間にわたり、九重文化センター体育館で障がい者アートの作品展示を行いました。

会期と会場の設定にあたっては、九重町の文化祭事業の一つである「九重の自然を描く絵画展・写真展」と同時開催とし、双方の集客の増加と訴求力の向上を図りました。

会場には県内15名の障がい者アート作家による絵画や切り絵、絵手紙や焼き物などの作品が50点展示され、多くの来場者に個性豊かな障がい者アートの世界を楽しんでいただきました。

また初日の14日には、絵手紙作家で「元気のえるアート!」実行委員会代表の原野彰子氏による絵手紙ワークショップも開催しました。

障がい者アート作品を初めて間近で見た方も多いようでしたが、その素晴らしさに触れ、感動したとの声もいただき、実りあるイベントとなりました。

●プログラム

会場設営	10月13日(土)
作品展示	10月14日(日)～21日(日)
絵手紙ワークショップ	10月14日(日)
会場撤去	10月21日(日)

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 九重町 九重町教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭及び第18回全国障害者芸術・文化祭九重町実行委員会

161

九重の自然を描く絵画展・写真展

開催日：平成30年10月14日(日)～21日(日)

開催場所：九重文化センター



●実施状況

九重町では毎年、九重の自然を描いた絵画・写真作品を全国から公募し、九重文化センターで展覧会を開催しています。

文化祭事業として実施した今回の展覧会には、洋画60点、写真25点など、過去最高の207点の出展がありました。姉妹都市である佐世保市をはじめ、九州各地、遠くは東京都、山梨県、埼玉県からも応募をいただき、内容的にも質の高い力作が集まりました。あわせて、高田力蔵氏、フランソワ・バブレ氏、デイビット・スミス氏、呉敏興氏等の作品を特別展示し、見応えのある展覧会となりました。

さらに今回は、展示作品を対象とした講評会を初めて実施しました。講師に創元会顧問の工藤和男先生をお招きし、作品・作者ごとに質疑応答形式で丁寧な講評を行っていただくことで、参加者が自身の絵画を見つめなおす貴重な機会となりました。

「笑顔でつながるアート展」との同時開催、また「九重ふるさと祭り」との共催効果もあり、本展覧会には過去最高の1,426名の来場者にお越しいただくことができました。「おおいだ大茶会」の趣旨に沿って実施した、来場者へのお茶のおもてなしも好評をいただきました。

●プログラム

作品搬入	10月6日(土)・7日(日)
作品展示	10月14日(日)～21日(日) 9:00～17:00(最終日15:00まで)
講評会	10月17日(水)10:00～15:00
作品搬出	10月21日(日)・22日(月)

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 九重町 九重町教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭及び第18回全国障害者芸術・文化祭九重町実行委員会 九重の自然を描く絵画展・写真展実行委員会

162

写真は歌う ～おーいおーい～

開催日：平成30年11月17日(土)

開催場所：九重文化センター



●実施状況

九重町の自然とそこで暮らす人々の想いを、音楽と映像のコラボレーションで表現するライブイベント「写真は歌う ～おーいおーい～」を開催しました。

福岡在住のミュージシャンiima（イーマ）と、写真家のいわいあや氏、九重町在住のライター音成葉子氏、それぞれのアーティストが、「九重町の文化財」と「各地区に伝わる盆踊り」を主な素材として制作活動を行いました。

一過性のイベントにすることなく、かつ芸術性の高い作品にしたいという思いから、関係者で話し合いを重ね、時には軌道修正をしながら、一年がかりで撮影と音づくりが進められました。

音成氏といわい氏は四季折々の九重町各所を巡りながら、町内ほぼ全ての文化財を取材、撮影しました。

iimaのインイタカユキ氏と永山マキ氏は、地区毎に異なる節回しを持つ盆踊り「まっかせ（まかせ）」に着目し、各地域の盆踊り伝承団体を訪問して音源を採取するとともに、地域性を残しながら独自のアレンジを加えた作曲を行いました。

下旦祇園祭と野矢地区の盆踊りにアーティストが参加し、地域の伝統文化や食、人の暖かさに触

れたことも、作品に一層の深みを持たせることにつながりました。

さらにアーティストの皆さんには、事前告知活動として実施した役場ロビーや子育て交流センター、八鹿酒造等でのミニライブにもご協力いただきました。

当日の会場には町内外から多くの観客が訪れ、いわい氏の映像とiimaの楽曲、音成氏の詩が絶妙に組み合わせられた素晴らしいライブを堪能しました。今回のために作られたオリジナル曲「まかせ（iimaアレンジ）」はじめ、九重町をテーマとした音楽や映像に、多くの方が感動の涙を流していました。

●プログラム

おーいおーい/おっぱいぺったんこ/Oh!YUGEと湯気!/あなたのせいじゃないよ/SONG BIRD/グランドウォーカー/まかせ/PRAYER/最終回のうた

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 九重町 九重町教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭及び第18回全国障害者芸術・文化祭九重町実行委員会 写真は歌う実行委員会

開催日：平成30年10月13日(土)～11月25日(日)

開催場所：豊後森機関庫公園周辺(くすまちメルサンホール、森の米蔵)



●実施状況

玖珠町では展示とステージの2部門で、障がい者アートの世界に触れるイベントを実施しました。

展示部門では、「童話の里くすまち『障害者芸術・文化祭』作品展—あなたに、知ってほしい—」と題して、町内の障がい者団体から提供いただいた絵画や写真をくすまちメルサンホールロビーに展示しました。あわせてダウン症の書家の金澤翔子さんが玖珠町にて公演した際に書き下ろしていただいた書「共に生きる」の展示も行いました。

また「風人展～たったひとつの尊いいのち」と題し、昭和初期に建てられた土蔵造りの倉庫をリノベーションした多目的交流スペース「森の米蔵」を会場として、障がいのある方が思いのままに描いた墨字、絵画を展示しました。

ステージ部門では、10月14日にくすまちメルサンホールで開催された「こどもが主役のフェスティバル」に、障がいのあるメンバーで構成する長崎のプロ太鼓集団「瑞宝太鼓」が特別出演するとともに、長年交流のある日出生中学校の「日出生大自然太鼓」と共演しました。

11月17日には、「森の米蔵」を会場として、「葉っぱのフレディ～いのちのたび～」を上演しました。主役のフレディ、ダニエルを2名の知的障がいのある方が力強く演じるとともに、プロのナレーション、バイオリン、声楽、パーカッションピア

ノ等の生演奏が加わり、語りと音楽と映像のコラボレーションによる見応えのある公演となりました。自分のいのちにも、相手のいのちにも同じ重さを感じながら、お互いの中に可能性を探し合うという本作品のテーマを来場された方が共に考えることで、障がいのある方々の芸術や文化活動への理解・啓発を深める機会となりました。

●プログラム

10月13日(土)～11月25日(日)

童話の里くすまち「障害者芸術・文化祭」作品展
10月14日(日)

瑞宝太鼓～響き渡る天上の音～

11月3日(土・祝)～25日(日)

風人展～たったひとつの尊いいのち
(企画：社会福祉法人暁雲福祉会)

11月17日(土)

葉っぱのフレディ～いのちのたび～
(企画：社会福祉法人暁雲福祉会)

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 玖珠町 玖珠町教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭及び第18回全国障害者芸術・文化祭玖珠町実行委員会

くすがわ きょうしんばし
舞台「玖珠川讃歌～協心橋物語～」

開催日：平成30年11月23日(金・祝)・24日(土)

開催場所：くすまちメルサンホール



●実施状況

11月23日と24日の2日間、舞台「玖珠川讃歌～協心橋物語」を上演しました。

このミュージカルは平成17年に玖珠町文化振興会が中心となって制作した「龍を見る人」をベースに一部加筆修正を加えたもので、1869（明治2）年、長雨により流された土橋を丈夫な木の橋に架け替えるために奔走した郷土の偉人「長野小六」の思いに現代の高校生が触れ、郷土への愛と自らの進む道を見い出していくという物語です。

演出には玖珠町出身で、ミュージカルを中心に幅広く活躍された帆足敏氏、脚本には東京在住で放送作家、劇作家の若林一郎氏、さらに「鉄腕アトム」の作曲で知られる高井達雄氏、日本を代表する舞台芸術家で千点を超える舞台セットを手掛けた太田創氏など、そうそうたるメンバーに作品を手がけていただきました。

出演者は長年玖珠町の演劇に関わっている「くすまち演劇研究会」の皆さんを中心に、多くの町民や文化団体の参加をいただき、約半年間にわたり練習を重ね、本番に臨みました。

会場となったくすまちメルサンホールには、町内外から2日間で延べ800人を超える観客にお越しいただきました。

一流のスタッフと、地元の方々を中心としたキャストが繰り広げる舞台からは、先人たちの思い、郷土を愛する心がひしひしと伝わり、「すばらしいステージでした」「玖珠の歴史を知る機会となり感謝」「明治と現代を結びつけ考えさせられた」など、多くの賞賛の声をいただきました。

●出演団体

くすまち演劇研究会/くすコールメルヘン/玖珠豊和美会/玖珠町文化振興会/久留島太鼓/山路踊り保存会

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 玖珠町 玖珠町教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭及び第18回全国障害者芸術・文化祭玖珠町実行委員会